



2025-26年度 第2650地区スローガン
「未来へつなぐ」

第2650地区 [1961.3.28創立]

YAMATOTAKADA ROTARY CLUB

クラブHP <http://yamatotakadarc.org/> アドレス ytrotary@abelia.ocn.ne.jp

地区HP <http://rid2650.gr.jp/> Facebook <https://www.facebook.com/yamatotakada.rc/>

例会日時：毎週火曜日 12時30分 例会場所：経済会館 3階大ホール
事務所：〒635-0095 大和高田市大和 106-2 経済会館 4階 TEL 0745-52-4366 FAX 0745-23-3823

会 長	山 田 博
副 会 長	安 田 志 郎
幹 事	木 原 常 裕
会報・資料委員長	酒 本 良 司

第24回(通算3064回)2026年(令和8年)2月3日号

本日の例会(2月3日)

令和の米騒動顛末記

木下庄司 会員

次回の例会(2月10日)

「2025年の振り返りと2026年の見通し」
一般財団法人 南都経済研究所
理事長 西川恵造 様

1月27日の例会報告 会長の時間

日本ロータリーEクラブ2650が創立15周年を迎えられました。創立時には大和高田RCの会員も多数協力させていただきました。大和高田RC出身で会長を経験された杉田博様が、創立15周年の実行委員長をしておられます。ご協力いただける方は事務局までご連絡ください。

さて、本日のお話にまいります。皆さんは、この地域に片岡という地名があることを御存じでしょうか。7世紀、聖徳太子の頃の地名です。大体の範囲は、王寺町、上牧町、広陵町、そして香芝市の北半分です。それが分かりますのは、長屋王宅の焼け跡から見つかった木簡に、それらの地域の地名が残っているからです。

いろいろ調べてみますと、その中心は、王寺町の放光寺や片岡神社の辺りであったようです。昔は片岡の宮と呼ばれるものがあり、それが片岡寺、片岡王寺と呼ばれるようになっていったとのこと。私も、王寺町というのはい体何に由来しているのだろうと思っておりましたが、片岡王寺から取った名前のようなのです。

この片岡の地は葛城氏という一族の支配地域の北半分に相当します。葛城氏は、第7代の孝霊天皇、第23代の顕宗天皇、第25代の武烈天皇と関わりが深く、片岡の地は天皇とゆかりのある有力な豪族がいたことが分かります。

また、香芝市には尼寺廃寺がございしますが、こちらも片岡の地にあったものです。この寺は法隆寺式の伽藍を持っており、塔の礎石は日本で最大のものが出土しています。金の耳輪も12個出土しましたが、これは日本では2番目に多い発見であります。

このように、我々の住んでいるこの地域には、片岡

という葛城一族との関わりが深い地域があります。この地の歴史にもう一度ご興味を持っていただく機会になればと思います、今日はご紹介させていただきました。

幹事報告

◎地区職業奉仕委員会と地区社会奉仕委員会の事業が、3月21日(土)13時30分よりリーガロイヤルホテル京都で行われます。そこで当クラブの昨年度の事業、「大和高田歴史ウォーク」について発表が行われます。次週から参加の申し込みを受け付けいたします。

◎理事会のご案内

1月27日(火)例会終了後

◎クラブ内規委員会

2月10日(火)例会終了後

ゲスト

八巻敏幸様(大阪樟蔭女子大学 国文学科教授
卓話講師)

誕生日祝

脇本吉清会員(1月30日)伊森隆敏会員(1月31日)

高橋正典会員(2月 1日)

結婚記念日祝

川中光教会員(1月27日)酒本良司会員(1月28日)

吉岡弘修会員(1月31日)川中教正会員(2月 2日)

堀内邦郎会員(2月 2日)村井善治会員(2月 2日)

創業記念日祝

岡本吉行会員(2月 1日)東辻英郎会員(2月 1日)

喜寿祝

脇本吉清会員

委員会報告及びその他報告

◎香芝地区情報集会

川村英亮世話人

第2回香芝地区情報集会を2月17日(土)18時からヴェルデ辻甚で行います。出欠を私のほうまでご連絡ください。

◎地区職業奉仕委員会 村島靖基地区副委員長

3月21日(土)の地区委員会の事業は、今までと違って、職業奉仕委員会と社会奉仕委員会と合同で行われます。前半は職業奉仕委員会が担当し、後半を社会奉仕委員会が担当します。その後半部の発表において、当クラブの「大和高田歴史ウォーク」が選ばれました。来週、詳しいご案内をお配りして、出欠を取らせていただきます。13時30分からリーガロイヤルホテル京都で行われます。吉岡委員長の応援よろしくお願ひいたします。

4つのテスト [言行はこれに照らしてから]

1. 真実か どうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるか どうか

ニコニコ箱

・八巻敏幸先生をお迎えして。

山田 博会員 安田志郎会員

・寒い中、例会出席ありがとうございます。お体ご慈愛ください。八巻先生をお迎えして。木原常裕会員
・八巻先生、卓話よろしくお願ひします。

清水良彦会員

・喜寿のお祝いを頂いて。 脇本吉清会員

・お誕生日祝を頂いて。 伊森隆敏会員

・結婚記念日祝を頂いて。

川中光教会員 吉岡弘修会員 酒本良司会員

・結婚&誕生日祝を頂いて。 川中教正会員

卓話 「仮名の書」の魅力について

大阪樟蔭女子大学 国文学科教授

八巻敏幸 様



書の作品というのは、書家の人ももちろん書かれますが、お坊様など人生経験を積んだ人もよく書かれているかと思ひます。書が一つあるだけで、部屋の雰囲気がよくなります。

私は学校教育に関わり、高等学校に長く勤めておりました。小中学校についても指導主事という立場で携わっておりました。学校教育の中で書はどういうふうに使われているかということですが、小学校には「書き方」「習字」などと呼ぶ書写の時間があります。1、2年生は硬筆ですが、3年生以上になると毛筆を習ひます。

ここでの書写の目的は「正しく整えて」というのが目標で、書家の方のような応用ではなく、きっちりした字を書くことを教えます。

中学校でも学習指導要領で定められていますが、受験対策などで手が回らないといった学校もあるようです。奈良県では高校入試の国語の問題で、「行書で書くとうなるでしょうか」といったものも出題されるので、きっちり行われているようです。

高等学校にまいりますと、芸術関係の時間に、音楽・技術・工芸・書道の中から選択されます。国語科の中ではなく、幅広い活動を通して、芸術を愛する心とか芸術に触れるということが入り口となっています。

次に、書の魅力についてお話しいたします。

まず、能力的なところで言ひますと、1番目は空間認識能力を鍛えることができます。文字のバランスを考えなければなりません。1つの字のバランスであったり、また全体の中でどんな大きさで書くかということもできないといけません。

それから、筆をどう動かしていくか、速さや押さえ方によって線が全然違ってきます。その辺りの運動能力も要求されます。

あと、どんなふうにしたらこんな字ができるのか、どう筆を運んだらどう線が出るのかという記憶力も大きく関わります。

こういった認知能力の向上につながるのではないかとされています。

次は、心の持ちようです。まず、無心になる時間を取れます。墨を擦って、非常にいい香りを感じて、何とも言えない気持ちになります。無心になる時間を作ることで集中力も高まります。心を落ち着かせて、精神を安定させることもできると思ひます。皆さんもお忙しい立場かと思ひますが、ぜひお時間作って書に取り組んでみてください。

また、何と言っても、自分を表現する、個性を發揮できるということがあります。一つの字の中にもたくさんの個性がありますし、言葉選びというのも大変重要になってきます。同じ墨の色だけではなく、薄い墨を使ったり、筆の運びでも線の質が変わってきます。筆を浮かして書くのか、押さえて書くのか、速さによって違いますし、紙にどう収めていくのかという構成など、無限に個性があります。

そして、書を通して新たな自分の発見をしていくということも一つ大きなその効用ではないかと思ひます。

書は文字を扱ひます。ですので、文字の歴史について少しだけお話ししたいと思います。

甲骨文字は漢字の起源とされていますが、紀元前3000年～5000年前のものが発見されています。象形という、物の形を司った最も古い字です。

紀元前1000年頃には少し進化して、4本線で4を表したような指事文字が青銅器等に見られます。

そして、篆書と呼ばれる書体が生まれます。これは、判こやパスポートの「日本国旅券」という字でおなじみかと思ひます。これが紀元前後ぐらいです。

篆書の次が隸書で、篆書の複雑さを緩和し、早く、美しく書けるように工夫されたものです。こちらは紀元後185年、漢の時代に完成されたと言われています。横に長い字で、装飾性があり、今でもよく使われています。

唐の時代には楷書が完成しました。そして、早く書くために、行書、草書となっていきます。草書はなかなか読みにくいですが、平仮名の元となりました。このように漢字には、篆・隸・楷・行・草の5体があります。

日本には仏教などとともに伝来いたしました。そして、平安時代の9世紀ぐらいに平仮名ができました。平仮名には同じ音にも複数の書き方がありましたが、1900年に現在のように定められて、そのほかのものは変体仮名として区別するようになりました。仮名の作品を書く際には、同じ音が何度も出てくるときには変化を出しにくいので、変体仮名を使って変化を楽しんだりいたします。

書の魅力を感じるためには、まず読めるのが一番いいと思ひます。しかし、読むことができなくても、皆さんが見たときに、好きなのかどうかというところで判断していただいてもいいと思ひます。その中で、どういうふうな筆遣いであったのか、筆がどう運んでいっているのだろうか、早く書いているのだろうか、ゆっくり書いているのだろうかというのを想像しながら見ていただくと、より書の魅力を感じて楽しんでいただけるのではないかと思ひます。

出席報告	会員 総数	出席 義務 会員数	義務 会員 出席数	義務 会員 欠席数	義務 会員 MU	出席 免除 会員数	免除 会員 出席数	免除 会員 MU	出席率
1月27日	86	56	47	9	1	30	17	0	89.04%
1月13日	86	56	44	12	2	30	22	0	87.18%
1月6日	85	55	46	9	1	30	26	0	90.12%

※食品ロスの削減に努めましょう。(1月13日の弁当残数は6個)